

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	西区
学校名	大阪市立堀江中学校
学校長名	山本 裕康

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・堀江中学校では、第3学年 179名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 平均正答率については、全国平均より国語Aは4.6ポイント、国語Bは4.8ポイント、数学Aは8.4ポイント、数学Bは4.9ポイントと全てにおいて上回った。
- 平均無解答率は、全国平均より国語Aは0.9ポイント、国語Bは1.6ポイント、数学Aは2.7ポイント、数学Bは3.9ポイントと全てにおいて下回った。最後まであきらめずに解答する姿勢がみられる。
- 生徒質問紙より、全国と比較し肯定的回答の割合が高い質問として、「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいしたいと思う」については55.3%で、全国の32.9%よりも22.4ポイント上回っている。「学校の授業の復習をしている」については63.7%でH28年度より28.8ポイントアップし、全国よりも13ポイント上回っている。「読書は好きですか」については79.4%で、全国よりも9.5ポイント上回った。しかし、「ボランティア活動への参加」は60.9%、「地域や社会で起こっている問題や出来事への関心度」は55.9%で、全国よりも9.7ポイント、3.3ポイント下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

学習指導要領の各領域の平均正答率について、国語A・Bともに全ての領域で全国平均を上回った。特に国語Bの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は57.0%で全国平均より15.6ポイント上回った。1年時より自分の考えや意見を文章化することや、国語力を活用して川柳や俳句等を作るなど、「書くこと」への取組を推進したことが成果に表ってきた。

生徒質問紙からは「読書が好き」という生徒が増加するとともに、「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」割合が69.9%で全国より4ポイント上回るなど、平均正答率にも結びついている。

【数学】

学習指導要領の各領域の平均正答率について、数学A・Bともに全ての領域で全国平均を上回った。特に数学Aの「資料の活用」は67.2%で全国平均より9.6ポイント上回った。

生徒質問紙からは、「数学の勉強が好き」が68.2%で全国の55.4%を12.8ポイント上回り、「数学の授業の内容はよく分かる」は77.7%で全国の69.4%を8.3ポイント上回った。他の質問についても全国を上回る結果が多く、平均正答率にも結びついている。

質問紙調査より

- 生徒質問紙より、全国と比較し肯定的回答の割合が高い質問として、「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいしたいと思う」については55.3%で、全国の32.9%よりも22.4ポイント上回っている。「学校の授業の復習をしている」については63.7%でH28年度より28.8ポイントアップし、全国よりも13ポイント上回っている。「読書は好きですか」については79.4%で、全国よりも9.5ポイント上回った。

- 課題であった家庭学習について「家で授業の復習をしている」割合がH28年度の34.9%→63.7%にアップし、全国平均の50.7%を上回った。また、「自分で計画をたてて勉強している」割合がH28年度の45.2%→54.2%にアップし、全国平均の51.5%を上回った。学習塾に通っている割合が全国より高いが、学習塾での学習を家庭学習にも上手く活用している。

- しかし、「ボランティア活動への参加」は60.9%、「地域や社会で起こっている問題や出来事への関心度」は55.9%で、全国よりも9.7ポイント、3.3ポイント下回っている。

今後の取組

【国語】では、今後も引き続き、読書活動、生徒が主体的に話し合う活動、アクティブ・ラーニング、「書くこと」の取組を推進するとともに、それらを有機的に行い国語力を活用する場面を増やしていくことで授業改善の工夫を行う。また、国語の授業以外にも文章を書く場面を設定し、国語科の教員がリードして感想や自分の意見等を論理的に書かせる指導や評価を、1年時より継続的・計画的に取り組む。

【数学】では、ICTの有効活用、授業用ノートの活用を通して授業および家庭学習の充実を図ったり、定期テスト等の結果を分析することで、生徒の実態を把握したり、生徒自身が自己の学力を知るなど、今後の学習に役立てる。また、習熟度別授業・放課後学習によって個々の指導の強化に取り組む。

全教科においては「言語力や論理的思考能力の育成」に向け、「ICTの活用」「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業づくりに取り組む。校内研修会等を実施し教員の指導力向上を図るとともに、基本的な生活習慣の確立に向け、学校・家庭・地域と連携し、生徒会活動の「5つの取り組み」をさらに全生徒に定着させる。また、地域貢献等「ボランティア活動への参加」の取組を推進し、自尊感情や自己有用感を育成する。